

大上の使命“山口剛超え”



「いい意味で勝たないといけないと思う
大上もいるんだぞ：というところを見せたい」

今、ボートレースが熱い。宮島も熱い。広島支部のレーサーを中心に深掘りするインタビュー企画「宮島でプチ上げ」の2回目は、大上卓人（35＝広島）を取り上げる。宮島からの推薦を受け、8月の桐生SGメモリアルに出場が決まった。昨年8月に三国周年でGⅠ初制覇を飾り、今年の賞金レースでも、グランプリ出場を狙える位置に付けている。広島支部“第2の男、からの脱却を目指し、下半期の意気込みを語った。

そろって選出 広島支部によき先輩であり、よきライバルがいる。この人を超えたい。そんな思いで、レーサー人生の中盤に差し掛かった。「今、広島と言ったら（山口）剛さん。僕はもう若手ではないけど、下から突き上げるぐらいじゃないといけないと思っています」。約5年前、ひとつのチャンスを得た。宮島の推薦により、蒲郡のSGメモリアルに出場した。当時はSG出場経験に乏しく、施行者の大きな期待を受けてのエントリーだった。自身もその後押しに応えたいと奮闘したが、結果的に実力が足りず予選敗退。2着が1度あっただけの、まさに完敗だった。

次の機会こそは…。じくじたる思いで研鑽（けんさん）を積んだ。アピールにつながる結果が出たのは、昨年だった。8月の三国周年でGⅠ初優勝を果たした。11月にはデビュー14年目にして、初めてSGチャレンジカップに出場した。年間を通して強豪にもまれ、年末のベスト18入りを意識できるところまで、地力を蓄えた。その成果が、施行者の目に留まった。今年6月、宮島周年で、初めてドリーム戦に抜てきされた。さらには、8月の桐生SGメモリアルに、山口剛とともに選出された。「自分のやってきたことが、少しずつ認めてもらえたのかなと思うと、うれしいです。メモリアルにも選んでもらえたので、もっと、もっと安定した成績を残さないといけないと思っています」。これからのレーサー人生において、前に進む大きな原動力を手に入れた。

願望ではない デビュー時からスタートの早さに定評があった。ターンセンスも非凡。しかし、エンジン出しには学ぶべきことが多かった。「昨年の夏からチャレンジカップまで、ひどい成績で、ペラ調整に悩んでいた。だからこそ、これでは駄目だと思い、年が明けてから、今までのペラ調整の先入観を1度、捨てて、新たなやり方に取り組んでいます」。その挑戦が、今年3月の蒲郡クラシックで実り、SG初優出。そして、現状を超えるため、今以上にSG出場の機会を切望している。「剛さんともっと一緒にSGに行けば、これまで以上に、ペラ調整などのアドバンテージを得られると思う。僕が結果を出すことで、広島の手も、もっと意欲が出てくると思います」。自分のためにも、広島支部の未来のためにも、やるべきテーマが、明確になってきた。

間もなく、選手間で「県内戦」と呼ばれる、宮島のお盆シリーズが待っている。他場の例に漏れず、宮島でも、正月、ゴールデンウィークとともに、広島支部の強豪が集結し、優勝を争う。大上は、この宮島3大決戦を、18～20年の短い期間で、あっという間に制した。しかし、それ以降は優勝なし。間違いなく、実力は上がっているにもかかわらず、頂点に立っていない。「正月、お盆も含め、当分、優勝していない。やっぱり、剛さんがいるから、いい意味で、勝たないといけないと思う。大上もいるんだぞ…というところを見せたい」。強い相手を倒してこそ、自信につながり、自身の存在を宮島のファンに、そして、全国のファンにアピールすることにもなる。「山口超え、は大上にとって、願望ではなく、使命だ。

◆大上卓人（おおうえ・たくと）1990年（平2）9月3日、広島県生まれ。109期生として、11年11月宮島でデビュー。16年3月宮島で初優勝。通算優勝27度。GⅠ優勝1度。今年3月蒲郡クラシックでSG初優出。同期は丸野一樹、永井彪也、島村隆幸がいる。168㌢、53㌔。血液型AB。

写真で見る大上の主な優勝

